

外部評価の公表にあたって

アジア成長研究所（AGI）は1989年に国際東アジア研究センターとして設置され、北九州の地にあってアジアの経済・社会問題を研究しながら国際学術交流を促進するなど、多くの皆様のご支援とご協力のもと、着実に実績を重ね、今日に至っている。

ここに公表する外部評価報告書は、現中期計画（2021-2025）を基に、2024年度における当研究所の目的、組織、運営、研究活動の総体について外部評価をいただき、研究所のさらなる機能改善に向けて示唆をいただいたものである。

今回の外部評価は、アジア経済、産業政策及び都市政策分野の国内外で著名な研究者3名に委員をお願いし、2025年11月に実施していただいた。その評価及びその後の検討を踏まえて作成していただいたのが本報告書である。

本報告書は、当研究所の独自性である「地方公共団体に所属する研究所として、学術的研究と共に北九州市に関連する政策的研究を両立させる」という目標に対し、多くの活動について高い評価をいただいた。また、アジアと日本の研究者が相互に学びあえるテーマの研究に関して、内外に著名な研究所を持つことが北九州市のブランド価値を高めることの意義を広く理解してもらえるとの指摘をいただいた。このことは、期待される役割を十分に發揮するための、さらなる努力の必要性を指摘している。例えば、研究員には、アジア諸国と日本あるいは北九州市をターゲットとする研究テーマの意識付けが必要とされることや、市との政策連携についてはAGIとして軸をもつこと、政策立案についてエビデンスベースで取組み、ロジカルに政策を磨くべきとの指摘があった。さらには、GX（グリーントランスフォーメーション）やサプライチェーンの再編など国レベルの課題を北九州市の産業政策・地域振興と結びつける研究を組織的なチーム体制で推進することが次期中期計画で重視されることが望ましいとの意見もいただいている。

指摘された課題を解決すべく、当研究所としては今後も「シンクタンクとしての貢献」と「アカデミックな学術研究機関としての貢献」との事業軸に沿い、これらの課題を実際の活動のなかに一層具体化させ、課題の解決を追求しなければならないと考えている。

ご多忙中にも関わらず業績評価の労をお取りくださった外部評価委員会の3名の委員の方々に、この場を借りて謹んで心から御礼を申し上げたい。

2025年12月 アジア成長研究所 理事長 八田 達夫

外部評価の概要

1. 評価方法

中期計画の達成状況、北九州市行財政改革大綱の見直し内容及び当研究所の新たな取り組みについて意見交換を行い、それらに対する評価と助言に加え、次期中期計画期間を迎える当研究所の今後のあり方についてのご提案に関して報告書にまとめていただいた。

2. 外部評価委員会委員（50音順）

浅見泰司 東京大学執行役・副学長

大橋 弘 東京大学副学長・教授

木村福成 アジア経済研究所所長、慶應義塾大学名誉教授

3. 外部評価委員会報告書

別添のとおり